

松戸市環境未来会議 2025 からの提案

～ゼロカーボンシティまつどの実現に向けて（住まい・移動・街づくり編）～

2026 年 3 月

はじめに

松戸市環境未来会議 2025 に参加した我々（50 名※）は、無作為に選ばれた松戸市民です。気候変動をはじめとする環境問題に対し、特別な知識を持っている訳でもない一般の市民から、仕事などを通じてこの問題に詳しい市民まで様々な市民が参加しました。

このように様々な知識や経験をもった松戸市民が、専門家の話を聞き、市民同士で議論するなかで、気候変動の現状に対する大きな危機感を抱きました。また、市民、事業者、行政が協力し合いながら様々な取組を進める必要があると考えました。

全 5 回の会議を通じた市民同士の議論により、最終的にとりまとめた取組は 82 個にもなります。

これらの取組が他の市民の共感を得られること、事業者の活動や行政の政策にひとつでも多く取り入れられることを願い、ここに「松戸市環境未来会議 2025 からの提案～ゼロカーボンシティまつどの実現に向けて（住まい・移動・街づくり編）～」を発表いたします。

松戸市環境未来会議 2025 参加者一同



※写真に写っているのは、第 5 回会議（最終回）に出席した一部の参加者です。

—目 次—

第1章 松戸市環境未来会議 2025 の概要

- 会議の目的 3
- 松戸市環境未来会議とは 3
- 実施体制 4
- 全体の流れ 4

第2章 ゼロカーボンに向けた取組提案と投票結果

- 取組提案の投票概要 7
- 取組提案の投票結果 8
 - 住まい・建物／再エネ 8
 - 断熱・リノベーション 11
 - エネルギー使用量の見える化 13
 - 緑化・自然環境保全 14
 - 教育・情報発信 16
 - 自動車・公共交通 18
 - シェアサービス・自転車 21
 - 道路・都市構造 22
 - ライフスタイル 23
 - 地域エネルギー 24
 - その他 25

第3章 市民を巻き込むエコアクション

- 市民を巻き込むエコアクションの考え方 27
- 提案内容 38

第1章 松戸市環境未来会議 2025 の概要

1. 会議の目的

松戸市は、気候変動問題への対応に向けて、市民・事業者・行政が連携し、二酸化炭素排出量を実質ゼロ（ゼロカーボン）とすることを目指しています。松戸市環境未来会議は、この課題について理解を深めながら議論を重ね、「ゼロカーボンシティまつど」の実現に向けた取組を整理・提案することを目的として開催されました。

本冊子は、松戸市環境未来会議における参加者の取組提案について、市民から松戸市への提案として取りまとめられたものです。

本提案では、全5回の会議内容を紹介するとともに、第5回会議で実施した「ゼロカーボンに向けた取組提案」の投票結果と、「市民を巻き込むエコアクション」について記載しています。

2. 松戸市環境未来会議の成果

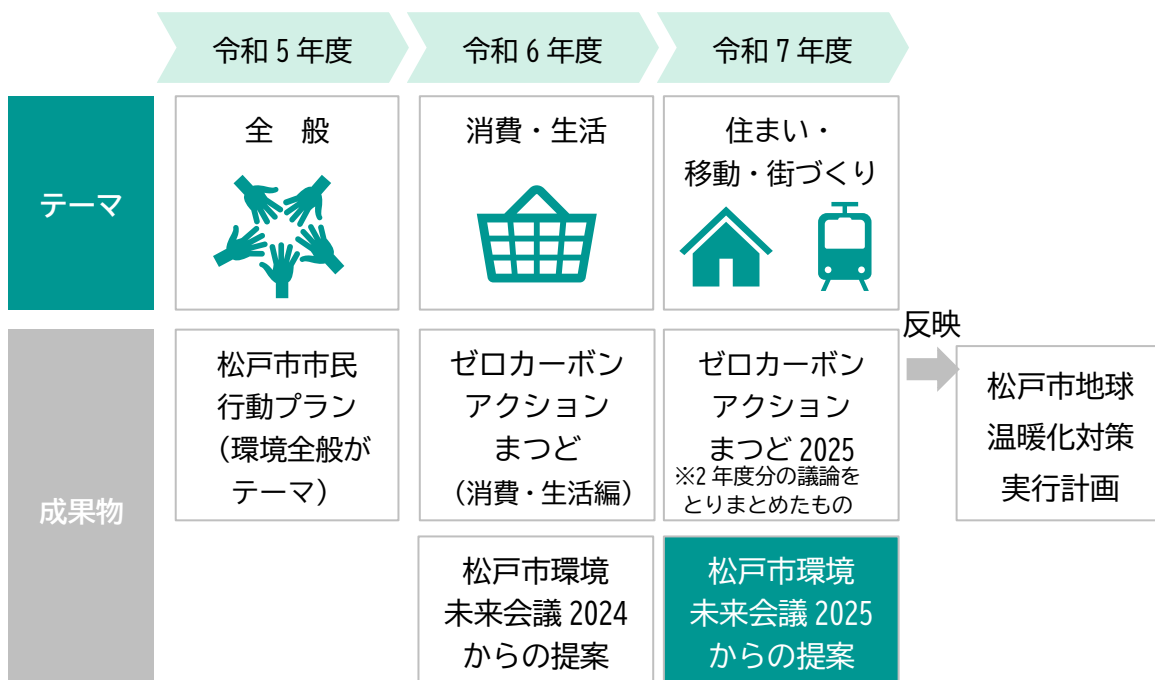
松戸市環境未来会議では、2023年度から2025年度までの3年間にわたり、気候変動対策に関する市民参加型の議論を進めてきました。2025年度は、その最終年度にあたります。

2023年度には、地球温暖化が自分たちに与える影響や、市民が取組む地球温暖化対策について意見交換を実施し、会議結果をもとに市民が地球温暖化対策を行う際の参考とするための「松戸市市民行動プラン」が取りまとめられました。続く2024年度には、参加者一同より提案された内容をもとに消費・生活分野に焦点を当てた「ゼロカーボンアクションまつど（消費・生活編）」が作成されました。

最終年度となる2025年度は、住まい・移動・街づくりの3分野について議論を深め、その成果について2024年度までに取りまとめられた「ゼロカーボンアクションまつど（消費・生活編）」と統合する形で「ゼロカーボンアクションまつど2025」が作成されます。

また、これら3年間の成果は、「松戸市地球温暖化対策実行計画」の見直しに反映される予定です。

「松戸市環境未来会議」の各年度の実施状況






3. 実施体制

会議の関係者は以下の通りです。

- 参加者：無作為に抽出された 50 名の松戸市民
- アドバイザー：尾内 隆之 氏（流通経済大学 法学部 教授）
- 司会進行：平野 将人 氏（一般社団法人銀座環境会議 代表）
- ファシリテーター：松戸市を中心に市民活動する方たち
- 主催：松戸市 環境政策課 ゼロカーボンシティ推進担当室
- 運営：株式会社エックス都市研究所

4. 全体の流れ

全 5 回の会議の流れは以下の通りです。

第 1 回	
日 時	令和 7 年 6 月 15 日（日）13 時 00 分～17 時 00 分
テ ー マ	脱炭素を身近に感じよう！
会議体構成	<ul style="list-style-type: none">・ 参加者：松戸市民（39 人）・ 講師：江守 正多（東京大学未来ビジョン研究センター副センター長・教授）・ アドバイザー：尾内 隆之（流通経済大学 法学部 教授）・ 司会進行：平野 将人（一般社団法人銀座環境会議）
会議の要点・主な成果	
<ul style="list-style-type: none">・ <u>講義①「気候市民会議に期待されること」</u>（講師：尾内 隆之） 内容 国内外の気候市民会議の事例をもとに、市民参加による合意形成の意義やプロセス、日本社会における気候変動への向き合い方について整理。 ・ <u>「2050 カーボンニュートラルゲーム」の体験</u> 内容 参加者が電力会社や住宅メーカー等の 12 の組織に分かれて、各々の立場からほかの組織とお金や情報等の様々な交渉を行いながら、事業活動と日常の消費行動を行い、2050 年のカーボンニュートラルの実現を目指すカードゲームを行った。ゲームの結果、温室効果ガス排出量の削減や吸収量の増加により、カーボンネガティブを達成。GDP の増加もみられ、環境と経済の好循環を体験する結果となった。 ・ <u>講義②「気候変動のリスクと市民の行動」</u>（講師 江守 正多） 内容 気候変動に関する科学的知見、気温上昇の影響、現行対策の限界を示し、将来世代への影響を踏まえた市民の行動変容の必要性を解説。 	

第2回	
日 時	令和7年7月13日(日) 13時00分～17時00分
テ ー マ	脱炭素な住まいについて考えよう！
会議体構成	<ul style="list-style-type: none"> 参加者：松戸市民（35人） 講師：宮田 征門（国土交通省 国土技術総合研究所） ：竹内 昌義（東北芸術工科大学 デザイン工学部 教授） アドバイザー：尾内 隆之（流通経済大学 法学部 教授） 司会進行：平野 将人（一般社団法人銀座環境会議）
<p>会議の要点・主な成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <p><u>講義①「住まいの省エネルギー（住宅設備編）」</u>（講師：宮田 征門）</p> <p>内容 日本の住宅におけるエネルギー使用実態を示した上で、高効率給湯器や空調、太陽光発電、蓄電池等の設備更新による省エネ・創エネの効果と留意点を整理。</p> <p><u>講義②「脱炭素社会に向けての家づくり、健康づくり」</u>（講師 竹内 昌義）</p> <p>内容 住宅の断熱性能が快適性や健康に与える影響を解説し、内窓、断熱ブラインド、隙間対策など、既存住宅でも実践可能な断熱手法を紹介。</p> <p><u>グループワーク</u></p> <p>内容 8グループに分かれ、以下の事項について、グループ内での意見交換を実施。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①松戸市の「住まい」に関する課題の抽出 ②松戸市の目指すべき「住まい」の姿の検討 ③松戸市で目指すべき「住まい」の姿を実現するための取組の提案 	



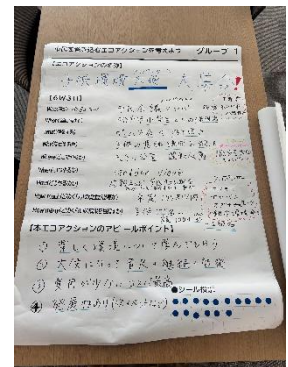
第3回	
日 時	令和7年8月24日(日) 13時00分～17時00分
テ ー マ	脱炭素な移動について考えよう！
会議体構成	<ul style="list-style-type: none"> 参加者：松戸市民（23人） 講師：松橋 啓介（国立環境研究所 社会システム領域 室長） アドバイザー：尾内 隆之（流通経済大学 法学部 教授） 司会進行：平野 将人（一般社団法人銀座環境会議）
<p>会議の要点・主な成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <p><u>講義①「移動の脱炭素」</u>（講師：松橋 啓介）</p> <p>内容 移動分野におけるCO₂排出の現状を示し、公共交通の利用促進、EV（電気自動車）・自転車の活用、行動変容や都市構造の見直しなど、複数の施策を組み合わせることの重要性を解説。</p> <p><u>グループワーク</u></p> <p>内容 6グループに分かれ、以下の事項について、グループ内での意見交換を実施。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①松戸市の「移動」に関する課題の抽出 ②松戸市の目指すべき「移動」の姿の検討 ③松戸市で目指すべき「移動」の姿の実現に向けた取組の提案 	



第4回	
日 時	令和7年9月23日(日) 13時00分~17時00分
テ ー マ	脱炭素な街づくりについて考えよう!
会議体構成	<ul style="list-style-type: none"> 参加者: 松戸市民 (27人) 講師: 倉阪 秀史 (千葉大学 大学院社会科学研究院 教授) アドバイザー: 尾内 隆之 (流通経済大学 法学部 教授) 司会進行: 平野 将人 (一般社団法人銀座環境会議)
<p>会議の要点・主な成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <p><u>講義①「松戸市でカーボンニュートラルは達成できるのか?」(講師: 倉阪 秀史)</u></p> <p>内容 エネルギー需給の実態を整理し、カーボンニュートラルシミュレーターを用いて松戸市における達成可能性を定量的に検証。</p> <p>グループワーク</p> <p>6グループに分かれ、以下の事項について、グループ内での意見交換を実施。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①街を構成する要素の検討 ②街の構成要素から派生した取組の提案 ③目指すべき「街」の姿を文章化 	



第5回	
日 時	令和7年10月26日(日) 13時00分~17時00分
テ ー マ	目指せ! 脱炭素な松戸市
会議体構成	<ul style="list-style-type: none"> 参加者: 松戸市民 (24人) アドバイザー: 尾内 隆之 (流通経済大学 法学部 教授) 司会進行: 平野 将人 (一般社団法人銀座環境会議)
<p>会議の要点・主な成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <p><u>取組提案の投票</u></p> <p>内容 第2回から第4回までに出された82の取組提案について、市民からの支持度合い等を問う目的で、現地でのWEB投票が行われた。投票は5段階で、5「強く支持する」4「支持する」と回答した人の割合が過半数を超えなかった取組については、支持を得られなかった取組として、本提案において「不採用」と掲載。結果として82の取組提案のうち78件を取組として採用。</p> <p><u>グループワーク(市民を巻き込むエコアクションの検討)</u></p> <p>内容 松戸市が2050年ゼロカーボンシティを実現するためには、市民の理解と共感を得て、行動につなげていくことが不可欠である。このため「松戸市環境未来会議2025」では、市民主体の実践につながる「市民を巻き込むエコアクション」を検討した。検討にあたっては、6W3Hを用いてアイデアを具体化し、「実現可能性」「市民への波及度」「参加意欲」の3つの観点から投票を行った。</p> 	



第2章 ゼロカーボンに向けた取組提案と投票結果

1. 取組提案の投票概要

第5回会議で実施した「ゼロカーボンに向けた取組」の投票結果について、記載します。投票の概要は以下の通りです。

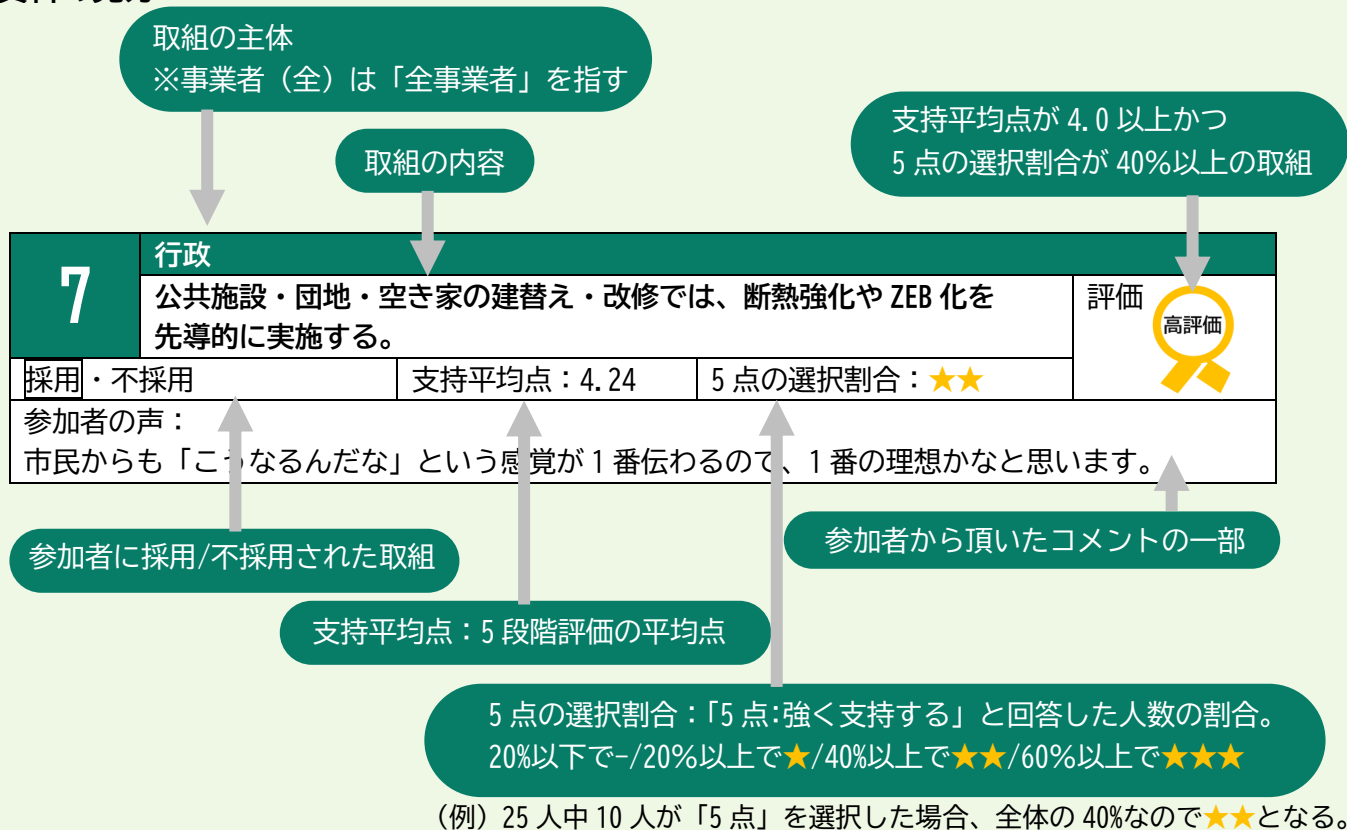
投票概要

- **投票参加者数**：25名（会場投票24名、オンライン投票1名）
- **投票方法**：会場でのWEB投票。各取組に対して参加者が以下の5段階で評価した。
 - 「5点：強く支持する」
 - 「4点：支持する」
 - 「3点：どちらとも言えない・わからない」
 - 「2点：あまり支持しない」
 - 「1点：支持しない」


各取組について、参加者が5点または4点を付けた人数が過半数を超えた場合は、多くの参加者から支持された取組と判断し、松戸市をはじめ市民や事業者に提案する取組として採用した。一方、過半数に達しなかった取組は、参加者の提案として不採用とした。本冊子では、各取組の評価結果を「採用／不採用」として掲載する。


- **投票カテゴリー**：「住まい・建物／再エネ」「断熱・リノベーション」「エネルギー使用量の見える化」「緑化・自然環境保全」「教育・情報発信」「自動車・公共交通」「シェアサービス・自転車」「道路・都市構造」「ライフスタイル」「地域エネルギー」「その他」


資料の見方







1	市民		評価
	オール電化住宅に住み替え、再エネとの相性が良い効率的な給湯（例：エコキュート）を活かして環境負荷を下げる。		
採用・不採用	支持平均点：3.68	5点の選択割合：-	
参加者の声： いきなりオール電化住宅に変えるのは難しいとは思いますが、手始めにエコキュートの導入などから始めていければ良いと思います。			
2	市民・事業者（全）		評価 
	住宅や事業所（オフィスビル・工場・商業施設・物流倉庫等）の屋根やカーポート、駐車場などに太陽光発電設備を設置し、必要に応じて蓄電池を導入して、自家消費を中心とした再生可能エネルギー利用を進める。		
採用・不採用	支持平均点：4.28	5点の選択割合：★★	
参加者の声： 土地の無駄のない利用を行っていくことは、人口密度の高い松戸市にとって重要なことだと思います。			
3	市民・事業者（全）		評価
	住宅や事業所を建てる時、改修するとき、購入するとき、賃貸借するときは、建物の省エネ性能を確認し、ZEH・ZEB等を検討・選択する。		
採用・不採用	支持平均点：4.20	5点の選択割合：★	
参加者の声： 同時に行政がZEHやZEBについて普及啓発していくことも大事だと思います。			
4	市民・事業者（全）		評価
	再生可能エネルギー由来の電力を契約して利用する。		
採用・不採用	支持平均点：3.64	5点の選択割合：-	
参加者の声： 再生可能エネルギーを利用することは環境問題への対策だけではなく、経済的にも大切なことだと思います。			
5	事業者（全）		評価
	自社施設で発生する熱を回収・再利用し、給湯・暖房・冷房・発電に活用する。		
採用・不採用	支持平均点：4.16	5点の選択割合：★	
参加者の声： そういった事業者の取組を、市民に見えるようにし、市民が事業者評価を行うことができる仕組みづくりが必要だと思います。			

6	事業者（住宅・建築）		評価 
	住宅を建てる時や、改修するときには、建て主へ再エネ設備や断熱改修の導入可能性を示し、補助金・税制優遇などの支援情報を分かりやすく説明するとともに、ZEH・ZEH-Mなど高エネルギー性能の住まいを積極的に提案・販売する。		
採用・不採用		支持平均点：4.44	5点の選択割合：★★
参加者の声： セキュリティにも配慮しつつ、実際に住んでいる人の住まいの参観日などがあれば面白いと思いました。			

7	行政		評価 
	公共施設・団地・空き家の建替え・改修では、断熱強化やZEB化を先導的に実施する。		
採用・不採用		支持平均点：4.24	5点の選択割合：★★
参加者の声： 市民からも「こうなるんだな」という感覚が1番伝わるので、1番の理想だと思います。			

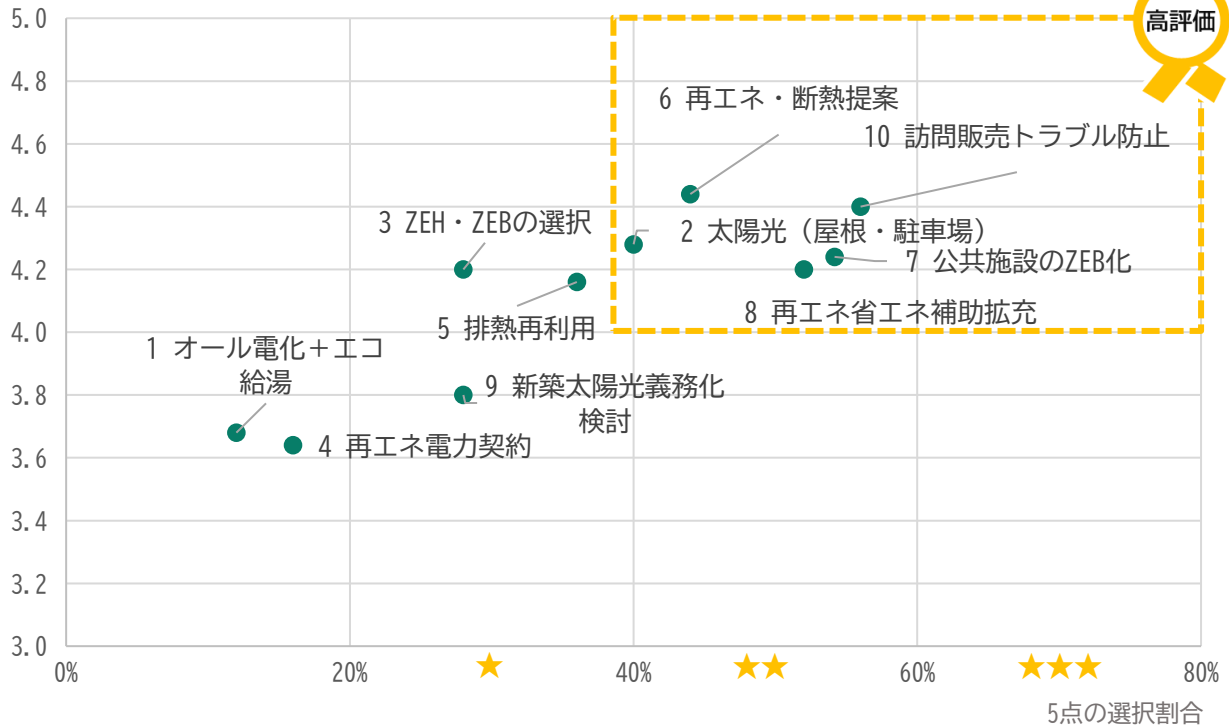
8	行政		評価 
	市民・事業者の太陽光発電設備や蓄電池の設置、省エネ・断熱改修の取組を後押しするため、補助金を拡充するとともに、減税などの優遇制度を整備し、取組メリットをわかりやすく発信する。		
採用・不採用		支持平均点：4.20	5点の選択割合：★★
参加者の声： ぜひSNSや動画投稿サイトを有効活用して、たくさんの市民に伝わるよう発信してください。			

9	行政		評価
	東京都の例を参考に、新築住宅への太陽光発電設備の設置を条例で義務化することを検討する。（東京都では、住宅メーカーおよび大規模建築物の建築主を対象として義務化）		
採用・不採用		支持平均点：3.80	5点の選択割合：★

10	行政		評価 
	訪問販売トラブル等を防ぐ独自ルールを整備し、市民が安心して太陽光発電設備を導入できる環境をつくる。		
採用・不採用		支持平均点：4.40	5点の選択割合：★★
参加者の声： チラシなども正しい情報が分からないので、松戸市からの情報としてトラブルにならないよう情報発信があると安心します。			

住まい・建物／再エネ
支持平均値×5点の選択割合

支持平均点




- ・ 支持平均点 3.0 以下の取組はなかったため、グラフは 3.0～5.0 の範囲で作成
- ・ 5 点の選択割合 80%以上の取組はなかったため、グラフは 0%～80%の範囲で作成




11	市民		評価
	賃貸住宅の居住者は、補助金情報の活用も踏まえ、大家に断熱改修や太陽光導入を働きかける。		
採用・不採用	支持平均点：3.60	5点の選択割合：-	
参加者の声： 大家さん・不動産・銀行・行政が協力して、断熱・太陽光発電導入を促せるのではと思いました。			

12	市民		評価
	管理組合や地域で連携し、断熱改修に必要な費用を共同で確保する仕組みをつくる。		
採用・不採用	支持平均点：3.56	5点の選択割合：-	
参加者の声： マンション住まいなので、組合として断熱に向けた取組ができるようになると良いと思います。			

13	市民・事業者(全)		評価
	改修工事のときは、開口部（窓・ドア）や壁・床の断熱改修を行い、年間を通じて快適に過ごせる住まいや職場環境を整える。あわせて、窓に断熱シートやプラダン等を貼るなどのDIYリフォームを取り入れ、自宅や自社施設でも断熱性能を計画的に向上させる。		
採用・不採用	支持平均点：4.04	5点の選択割合：★	
参加者の声： 「自分の環境は自分でいい方に直すことができる」という体験が非常に重要だと思います。自発的に動ける楽しさや達成感が、環境の取組を後押しします。			

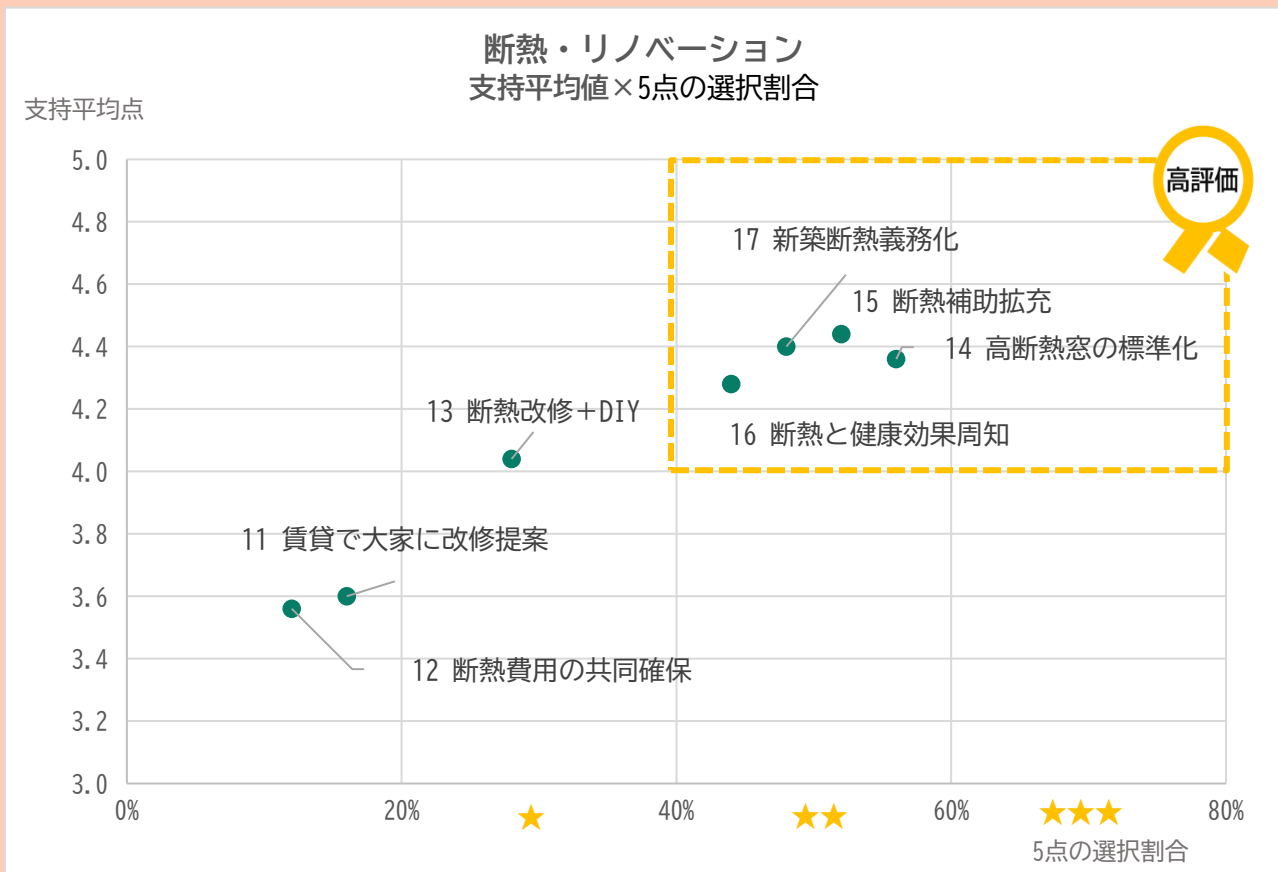
14	事業者(住宅・建築)		評価 
	新築・改修では断熱性能の高い窓（内窓、Low-E ガラス※、複層・樹脂サッシ等）を標準仕様とし、省エネ性能を高める。		
採用・不採用	支持平均点：4.36	5点の選択割合：★★	

※Low-E ガラス：「Low Emissivity（低放射）」の略で、ガラス表面に特殊な金属膜（Low-E 膜）をコーティングしたガラスのこと。太陽熱や室内の熱を反射・抑制することで、夏は暑さを和らげ、冬は暖房効率を高める効果があり、主に複層ガラスに用いられる。

15	行政		評価 
	市民・事業者の断熱改修を支援する補助制度を拡充するとともに、減税などの優遇制度を整備する。		
採用・不採用	支持平均点：4.44	5点の選択割合：★★	
参加者の声： 学校のような公共施設で断熱改修を実施した場合の効果を市民に伝え、「それを自分の家でも」という思考になることが重要だと思います。			

16	行政		健康被害の予防等の観点から、断熱住宅の効果（ヒートショック対策等）を周知し、関連施策を推進する。	評価 高評価
	採用・不採用	支持平均点：4.28		
参加者の声： 健康相談会や地域の体操などで、「断熱住宅は健康のためにもなる」として、市民に発信してもらえたらいいのではないかと思います。				


17	行政		新築住宅には省エネ基準に基づく一定以上の断熱性能の確保を義務付ける。	評価 高評価
	採用・不採用	支持平均点：4.40		
参加者の声： 今後必要になる取組であると思います。				







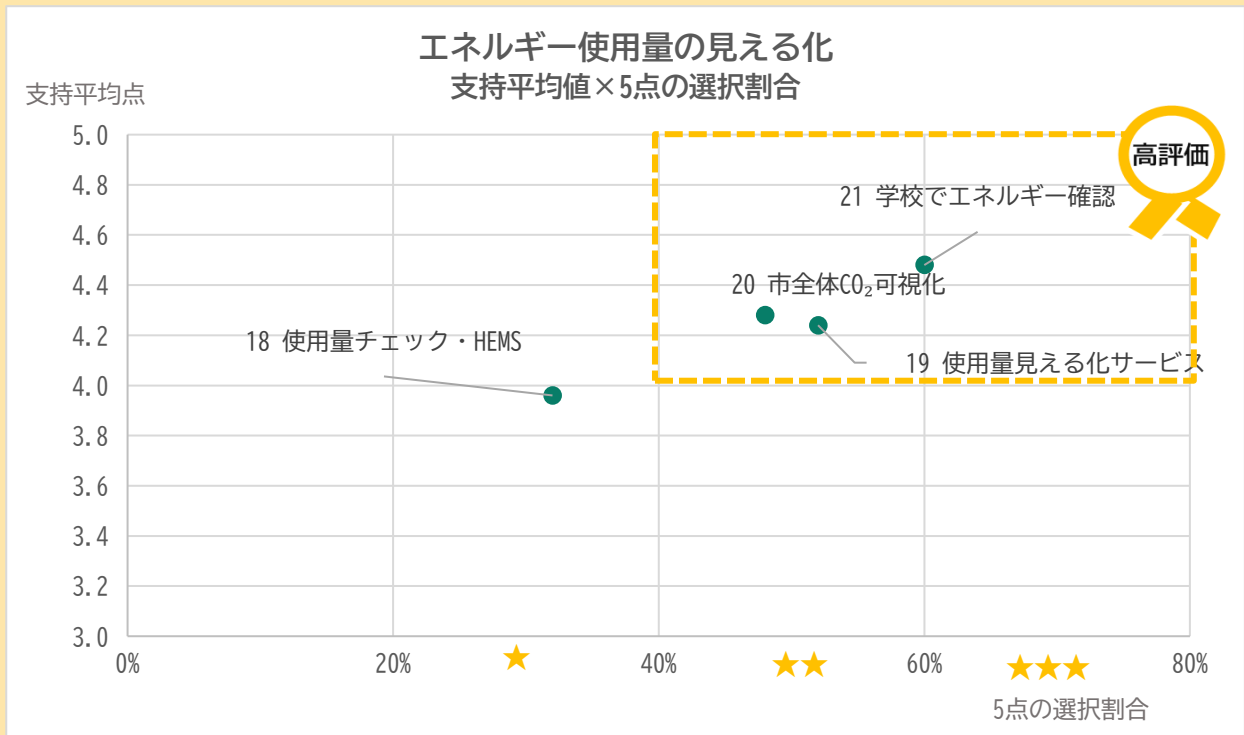
エネルギー使用量の見える化

18	市民・事業者(全)		評価
	検針票やWeb明細で家庭や事業所のエネルギー使用量を確認する。可能であれば、HEMS/BEMS等を導入して使用量が見える化し、運用を最適化する。		
採用・不採用	支持平均点：3.96	5点の選択割合：★	

19	事業者(エネルギー供給)		評価 
	市民・事業者が簡単に使用量を把握できるサービスを提供する。		
採用・不採用	支持平均点：4.24	5点の選択割合：★★	

20	事業者(エネルギー供給)・行政		評価 
	市全体の電力・ガス使用量やリアルタイムのCO ₂ 排出量を分かりやすく可視化し、市民の目につきやすいように定期的に公開する。		
採用・不採用	支持平均点：4.28	5点の選択割合：★★	
<p>参加者の声：</p> <p>温度湿度のように、外の電光掲示板などに出ていると感心が向きやすいと思います。ウェブで見られるだけだと興味のない人は辿りつかないので、駅の時刻掲示の横にあるなど、何もしなくても目に入るぐらい可視化されているといいなと思いました。</p>			

21	行政		評価 
	学校で児童にエネルギー使用量の確認・比較を行ってもらい、学びにつなげる。		
採用・不採用	支持平均点：4.48	5点の選択割合：★★★★	
<p>参加者の声：</p> <p>次世代任せも良くないですが、子どもたちにはしっかり学んでほしいと思います。</p>			






緑化・自然環境保全

22	市民		評価
	松戸市環境未来会議のメンバーを中心に、市民や事業者、行政が協力して、駅や商業施設、公園・田畑・川辺・森などでの緑の維持管理や植樹活動など、地域全体での緑化を進める。		
採用・不採用		支持平均点：4.12	5点の選択割合：★
参加者の声： 長期的に管理体制を整えられるかの観点から検討できたら良いと思います。			

23	市民・事業者（全）・行政		評価
	庭やバルコニーに植物を植え、生垣や緑のカーテンを設置するほか、屋上・壁面の緑化（屋上庭園、壁面緑化等）を推進し、建物や街の緑化を進める。		
採用・不採用		支持平均点：4.04	5点の選択割合：★
参加者の声： 身近なところから、取組を実施したいと思います。			

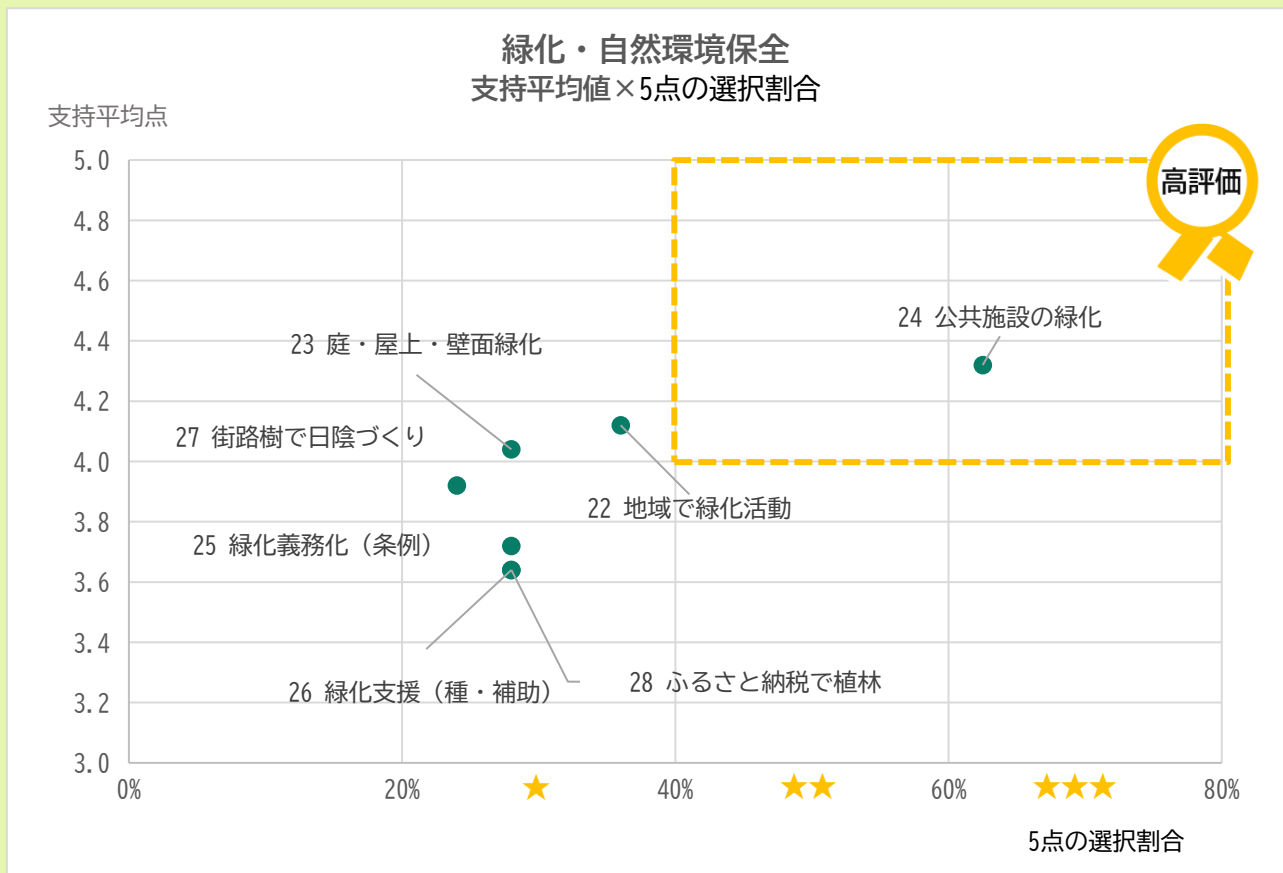
24	行政		評価 
	松戸新庁舎等の公共施設の緑化を進める。		
採用・不採用		支持平均点：4.32	5点の選択割合：★★★★
参加者の声： 建て替えにあたり、検討していただきたいと思います。			

25	行政		評価
	条例で緑化を義務化する、または強化する。（松戸市では、「松戸市における宅地開発事業等に関する条例」に基づき、宅地開発事業等に該当する事業を行う場合（戸建て住宅は対象外）は敷地内緑化施設に関する協議及び申請が必要）		
採用・不採用		支持平均点：3.72	5点の選択割合：★
参加者の声： 条例では戸建てが対象外になっていますが、生産緑地を宅地にしているような例もみられるため、戸建てにも何かしらの対策を実施すべきではないかと思います。			

26	行政		評価
	緑化の取組を後押しするため、種子配布や補助金交付などの支援制度を整備・拡充する。		
採用・不採用		支持平均点：3.64	5点の選択割合：★
参加者の声： 種の種類で、町の彩りが変わるので、それを踏まえて検討していただければと思います。			

27	行政	街路樹を計画的に増やし、歩行者空間に日陰を創出する。		評価
	採用・不採用	支持平均点：3.92	5点の選択割合：★	
参加者の声： 街路樹を増やすことで、涼しくなり歩行者も歩きやすい反面、自動車からすると歩行者が見にくく事故が起こりやすいということもあるため、植える場所は慎重に検討していただきたいです。				


28	行政	ふるさと納税を活用して植林や果樹園整備を進める。		評価
	採用・不採用	支持平均点：3.64	5点の選択割合：★	







教育・情報発信

29	市民・事業者（全）	市が発信する環境や省エネに関する情報を積極的に受け取り、自らの生活や業務に取り入れるとともに、市民や事業者同士で環境ビジョンを共有し、協力して環境配慮行動を実践する。	評価
	採用・不採用		

30	行政	学校教育でのゼロカーボン教育を強化し、環境先進国の国際事例も取り入れて、マネー教育と同じように学ぶ機会をつくる。	評価 
	採用・不採用		
<p>参加者の声： 学校教育で学んだことは、将来にわたって活きています。「ゼロカーボン」というよりは、「ゼロカーボンに繋がること」を教えて欲しいです。</p>			

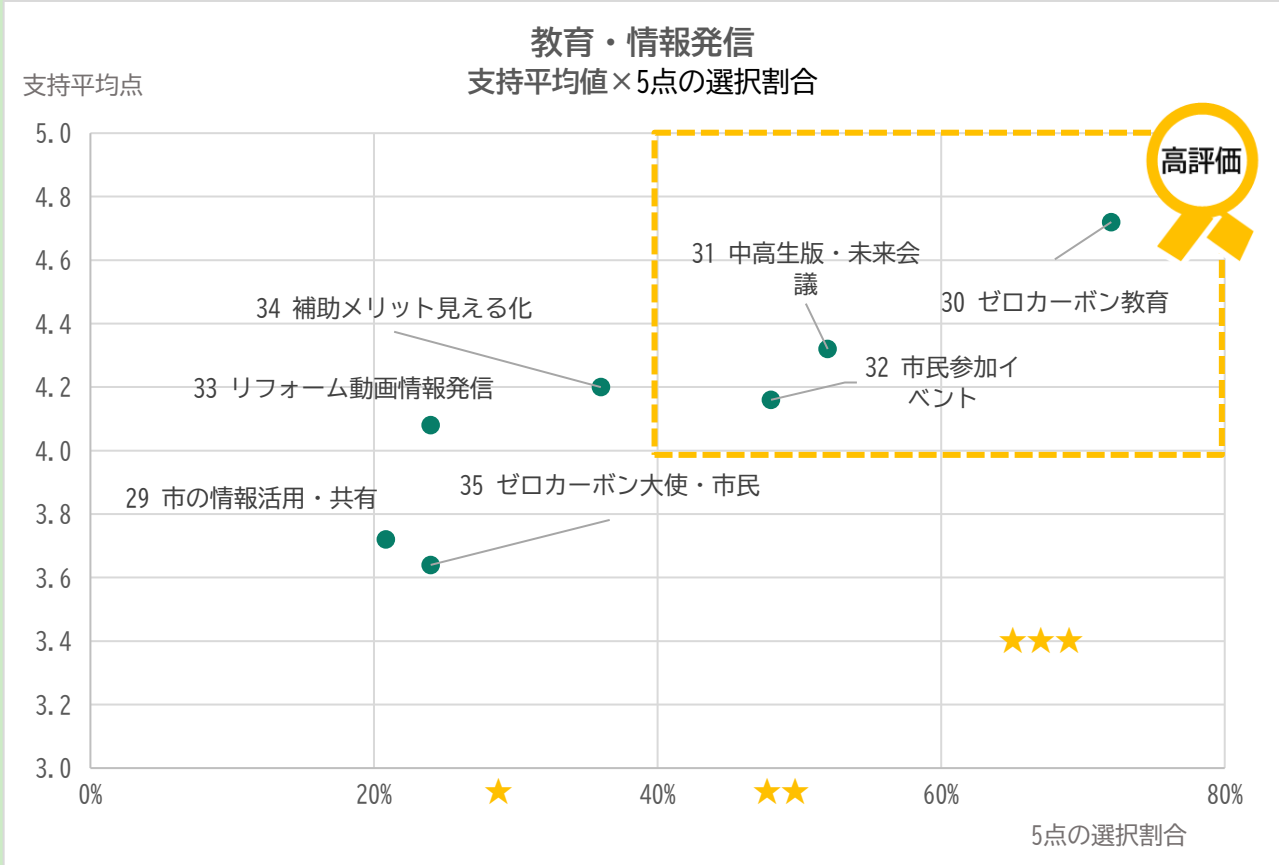
31	行政	中高生版の「松戸市環境未来会議」を実施し、「市長になったら…」企画などを通じて若者の意見を反映するとともに、「松戸未来会議」を継続・拡大し、市民の声を計画や施策に反映する仕組みを強化する。	評価 
	採用・不採用		
<p>参加者の声： 「自分が市長になったら」という考えをもつことはとても良いことだと思います。自分が住んでいる街をどうしていくか、どうしていきたいかなど考えていくことは未来に繋がることだと思います。</p>			

32	行政	市民参加型環境イベントやアイデアコンテストを継続的に開催する。	評価 
	採用・不採用		
<p>参加者の声： 行政と市民に加えて、事業者にも参加してもらい、直接市民の声をビジネスに反映させる場があってもいいのではないかと思います。</p>			

33	行政	動画配信やセミナーを活用し、市民が自ら省エネリフォームなどを実践できるよう情報を発信するとともに、SNS や市報など多様な媒体を通じて誰でも理解できる情報発信を行う。	評価
	採用・不採用		

34	行政	補助金を利用するとどの程度お得になるかをシミュレーションで見える化し、再エネ・省エネの経済的メリットを伝える。あわせて「省エネは高い」というイメージを払拭し、市のCO ₂ 排出量や取組状況も定期的に発信する。	評価
	採用・不採用		

35	行政	評価
	ゼロカーボン大使（著名人【例：那須川天心（プロボクサー）、琴櫻 将傑（力士）、阿部サダヲ（俳優）、ラッシャー板前（お笑い芸人）、村竹ラシッド（陸上競技選手）、平野レミ（料理愛好家・タレント）、涌井秀章（プロ野球選手）】）やゼロカーボンサポーター（市民）を任命・募集し、普及を後押しする。	
採用・不採用	支持平均点：3.64	5点の選択割合：★





【自動車・公共交通】

36	市民	近距離・長距離いずれの移動でも公共交通を積極的に利用し、自家用車の利用を減らすことで、温室効果ガス排出量削減に寄与する。	評価
	採用・不採用		


37	市民	宅配の再配達削減に向け、宅配BOX等を活用してラストワンマイルの排出削減に協力する。	評価
	採用・不採用		
参加者の声： 駅に共有の宅配ボックスを設置するのも一手ではないかと思ます。			

38	市民・事業者（全）	車両の導入・更新時はEV※等を優先的に選択し、必要に応じて充電設備の設置を検討する。	評価
	採用・不採用		


※EV（電気自動車）：電気をためたバッテリーで走る車。

39	事業者（運輸・公共交通）	配送トラックや市内運行バスをEV・FCV※に切り替え、環境負荷の低い車両導入を進める。	評価	
	採用・不採用			

※FCV（燃料電池自動車）：水素から電気をつくって走る車。

40	事業者（公共交通）	車いす・ベビーカー等に配慮した車両・サービスやパーソナルスペースの確保を進め、誰もが使いやすい公共交通にする。	評価	
	採用・不採用			

41	事業者（運送・配送）・行政	配送の相乗り（一括配送・共同受け取り）など物流の効率化を進める。	評価
	採用・不採用		

42	事業者（自動車）・行政	自動運転やバッテリー等の関連技術の開発・実証・普及を後押しする。	評価	
	採用・不採用			


43	事業者（自動車）・行政	自家用車の相乗り（ライドシェア等）を円滑にする仕組みを整備する。	評価
	採用・不採用		

44	事業者（自動車）・行政		評価
	市内のEV充電スポットを整備・拡充する。（職場・ショッピングモール・大型駐車場など）		
採用・不採用	支持平均点：4.12	5点の選択割合：★	
参加者の声： EV普及のために必要な先行投資だと思います。安心して充電できないと、EVに切り替えができません。			

45	事業者（公共交通）・行政		評価
	乗合バス、デマンドバス※、隙間バスなど多様な運行形態を整備するとともに、モビリティの利便性を高めるアプリ導入などを通じて、誰もが利用しやすい公共交通を実現する。		
採用・不採用	支持平均点：4.28	5点の選択割合：★	

※デマンドバス：予約に応じて運行ルートや時刻が変わる、柔軟に使えるバス。

46	事業者（公共交通）・行政		評価
	バス停を改善（屋根・リアルタイム案内・遅延表示など）し、利用を促す。		
採用・不採用	支持平均点：4.08	5点の選択割合：★	
参加者の声： 最近、QRコードからスマホで遅延情報などを確認できるシステムがありますね。			

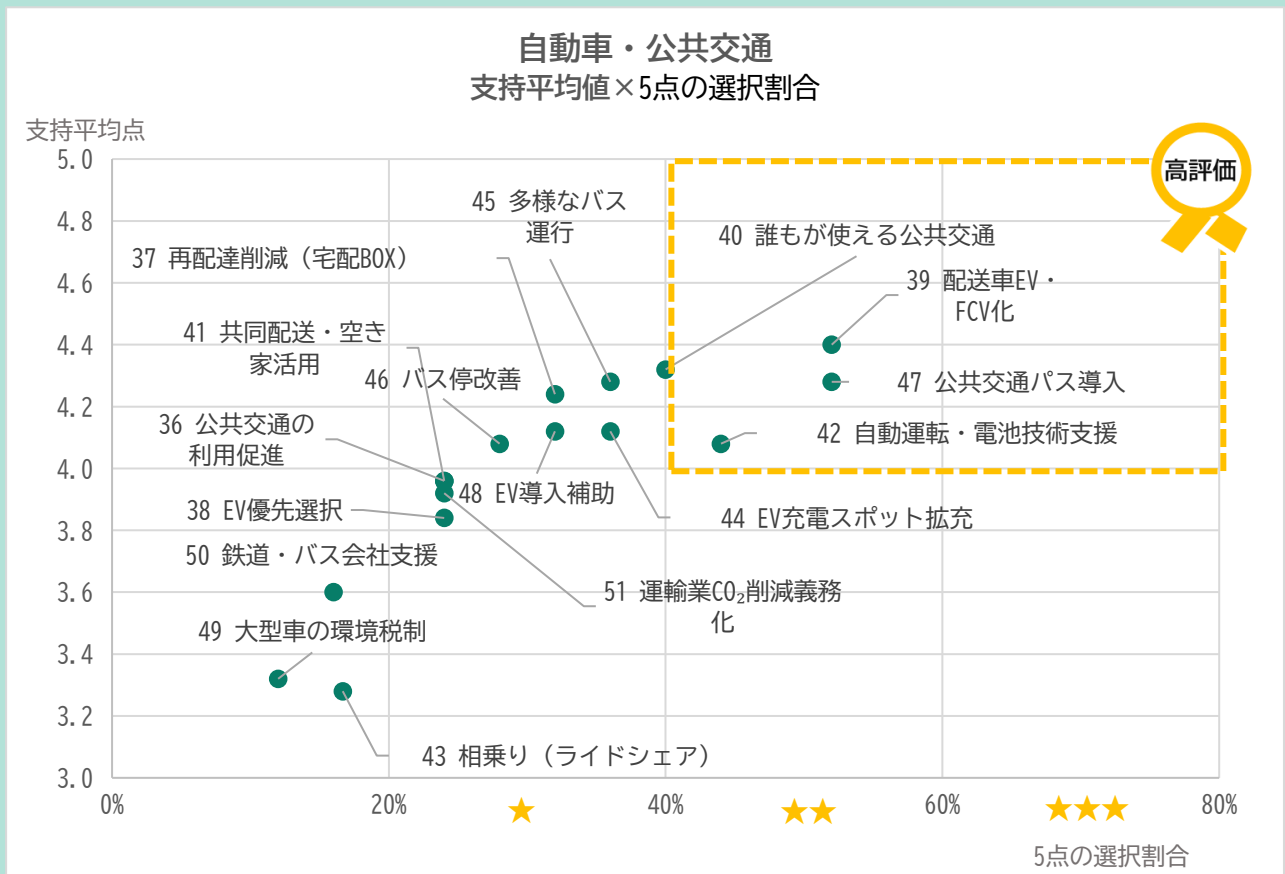
47	事業者（公共交通）・行政		評価 
	公共交通共通パスや市民専用ICカードを導入し、市民の公共交通料金負担を軽減する。		
採用・不採用	支持平均点：4.28	5点の選択割合：★★★	
参加者の声： 毎度の利用で負担軽減を図るのは予算上困難と思われるため、例えばオフピーク時間帯に限ったり、地域の商業施設の商品券とセットのキャンペーン切符を販売したりするなど、限定的に実施するのであれば、実施可能なのではないのでしょうか。			

48	行政		評価
	市民・事業者のEV導入を支援する補助金を拡充するとともに、減税などの優遇措置を整備する。		
採用・不採用	支持平均点：4.12	5点の選択割合：★	

49	行政		評価
	大型自家用車の保有に対して環境面の負担増を反映する税制措置を講じる。		
採用・不採用	支持平均点：3.32	5点の選択割合：-	

50	行政	バス会社・鉄道会社への資金面の支援を行い、サービス改善や本数増加を促進する。	評価
	採用・不採用		

51	行政	運輸・配送業者にCO ₂ 削減を義務付け、必要な支援を行う。	評価
	採用・不採用		



【シェアサービス・自転車】

52	市民	カーシェア・シェアサイクル・電動マイクロモビリティを積極的に活用する。	評価
	採用・不採用		

53	市民	日常の移動手段として徒歩や自転車を選択する。	評価
	採用・不採用		

54	事業者（移動販売）	移動販売や共同利用サービスを拡大する。	評価
	採用・不採用		

55	事業者（シェアモビリティ）・行政	カーシェア・シェアサイクル・電動マイクロモビリティ※を普及させ、コンビニや飲食店などにシェアサイクル拠点を設置して利便性を高める。	評価
	採用・不採用		

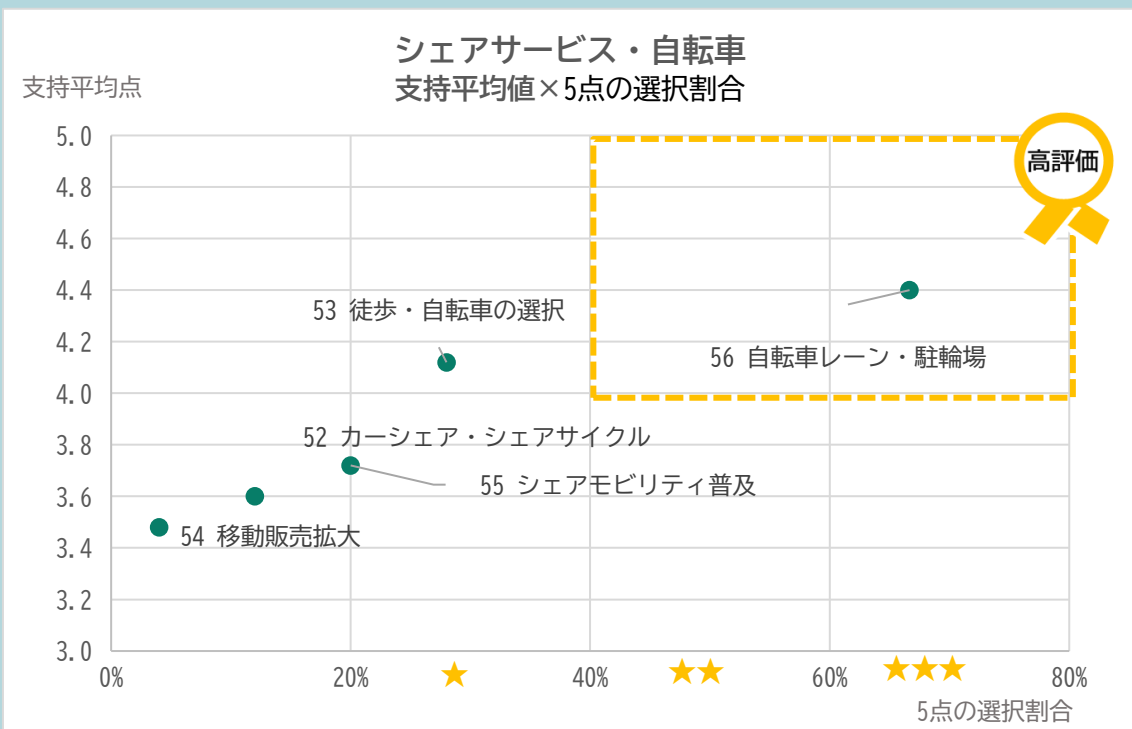
※電動マイクロモビリティ：電動キックボードなど、近距離移動に使える小型の電動乗り物。

56	行政	自転車レーン整備や駐輪場の充実など、自転車を利用しやすい環境を整える。	評価
	採用・不採用		



参加者の声：

自転車のルールも厳しくなった一方で、自転車レーンや駐輪場がないなど課題もあるので、整備が必要だと思います。





【道路・都市構造】

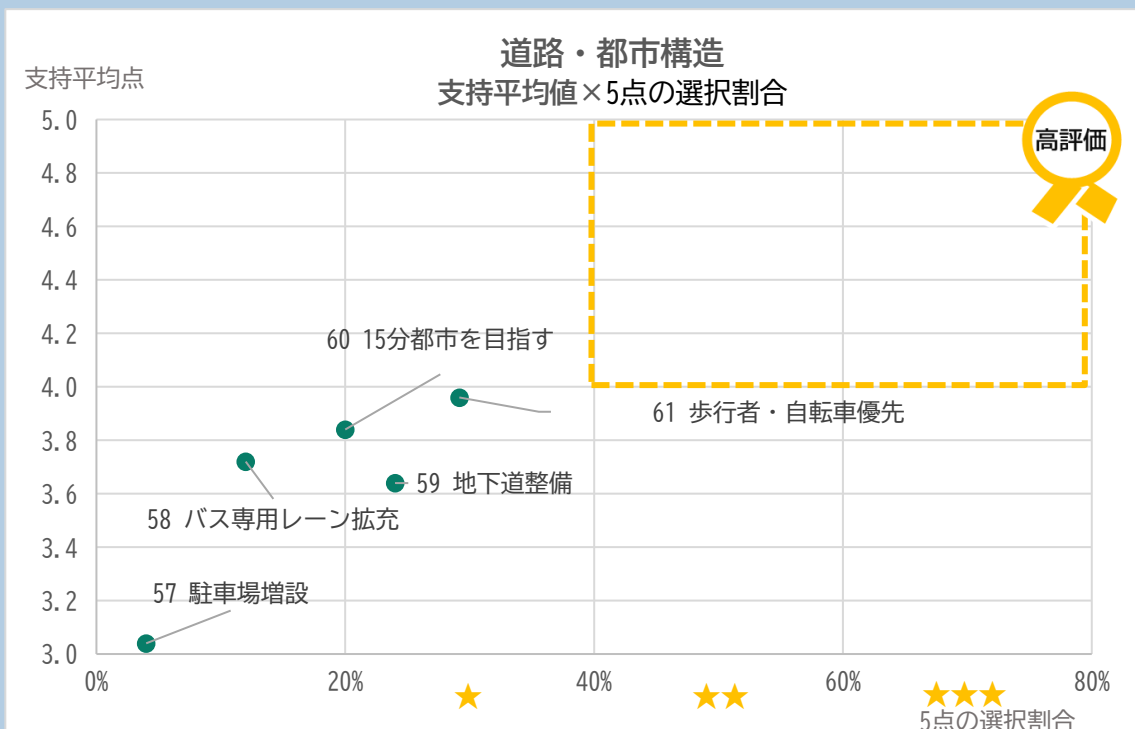
57	事業者（土地）・行政		評価
	駐車場を増やす。		
採用・不採用	支持平均点：3.04	5点の選択割合：-	
<p>参加者の声： 駐車場を探して無駄な走行が減るという考え方なのかもしれませんが、駐車場を増やすと、車移動が増えてしまい、CO₂の排出量が増えてしまうと思いました。</p>			

58	行政		評価
	バス専用レーン等の拡充で遅延を減らす。		
採用・不採用	支持平均点：3.72	5点の選択割合：-	

59	行政		評価
	地下通路・地下道を整備し、歩行者回遊性と安全性を高める		
採用・不採用	支持平均点：3.64	5点の選択割合：★	

60	行政		評価
	公共施設等は徒歩圏内に集約し、いわゆる「15分都市」を目指すとともに、商業施設の立地を誘導して地域のバランスを整える。		
採用・不採用	支持平均点：3.84	5点の選択割合：★	

61	市民・事業者（全）・行政		評価
	車優先から転換し、歩行者と自転車が安全・快適に移動できる街づくりを進めるとともに、一方通行化や車両制限などにより道路交通の最適化と安全化を図る。		
採用・不採用	支持平均点：3.96	5点の選択割合：★	

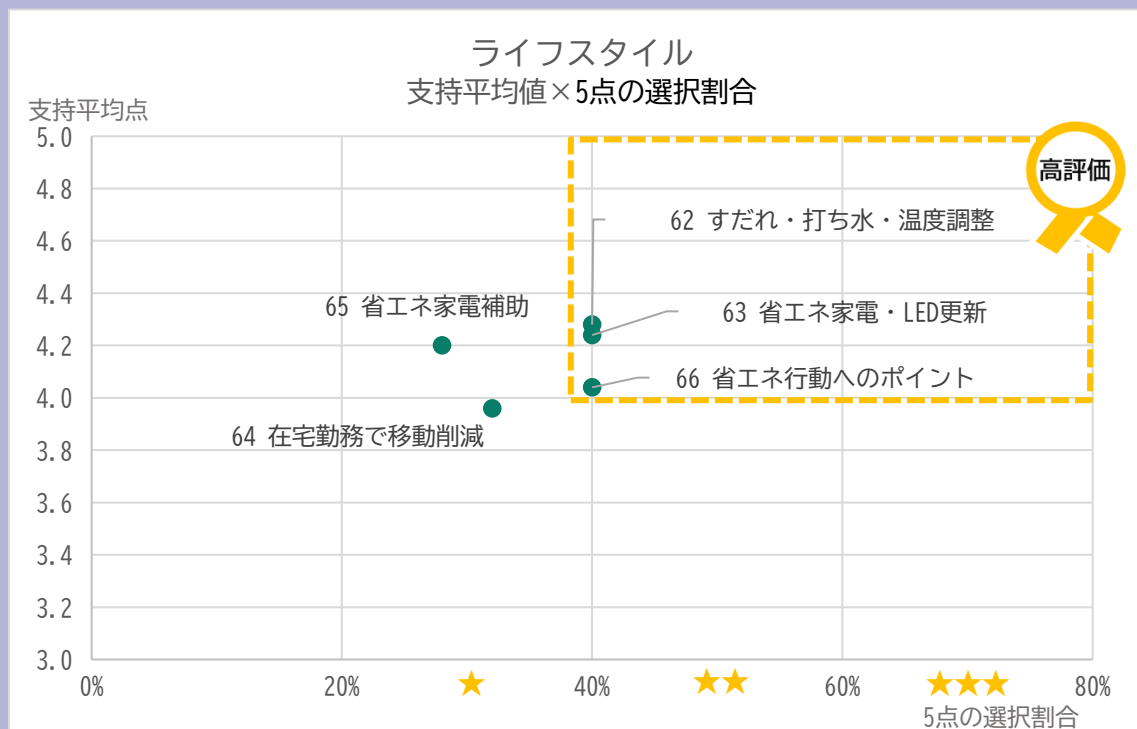




【ライフスタイル】

62	市民	日常生活の中で、すだれや打ち水などの工夫で夏の暑さを和らげるとともに、冷暖房の設定温度を調整するなど、無理のない省エネ行動を実践する。	支持平均点：4.28	5点の選択割合：★★	評価 高評価
	採用・不採用				
63	市民・事業者（全）	家電や照明は高効率機器（省エネ家電・LED等）に計画的に更新する。	支持平均点：4.24	5点の選択割合：★★	評価 高評価
	採用・不採用				
64	市民・事業者（全）	在宅勤務やWeb会議等の活用で移動を減らし、業務効率と省エネを両立する。	支持平均点：3.96	5点の選択割合：★	評価
	採用・不採用				
65	行政	市民・事業者の省エネ家電購入を支援する補助制度を拡充する。	支持平均点：4.20	5点の選択割合：★	評価
	採用・不採用				
66	行政	節電や徒歩・自転車移動などの省エネ行動に対し、ポイント還元等のインセンティブ制度※を導入する。	支持平均点：4.04	5点の選択割合：★★	評価 高評価
	採用・不採用				

※インセンティブ制度：行動を促すために、補助や特典を与える仕組み。





【地域エネルギー】

67	事業者（エネルギー供給）・行政	エネルギーの自給自足と地域内共有（系統蓄電等）を可能にする仕組みを構築する。	評価
	採用・不採用		

68	事業者（エネルギー供給）・行政	河川敷・駅舎・鉄道レール上などの遊休空間を活用し、太陽光発電を設置する。	評価
	採用・不採用		
参加者の声： ハードルは多いと思いますが、ぜひやっていただきたいです。			

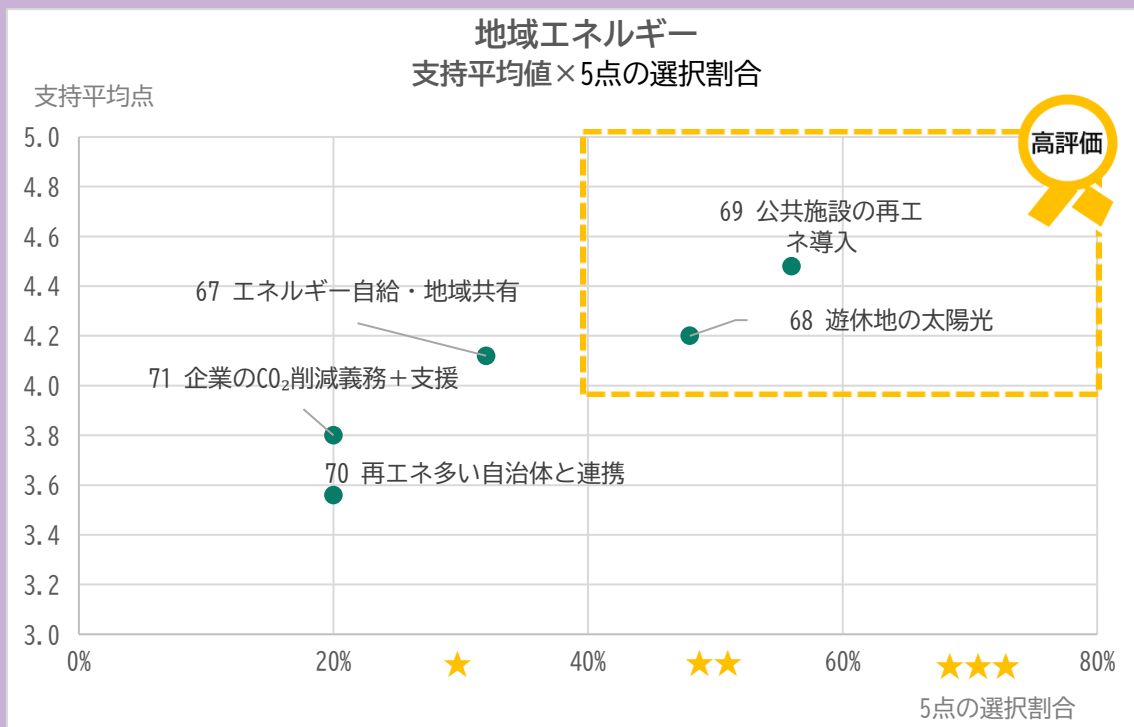


69	行政	公共施設・駐輪場・駐車場を含む市管理施設に再エネ設備を計画的に導入し、焼却場の発電・排熱も地域で最大限に活用する。	評価
	採用・不採用		



70	行政	再エネ供給量の多い他自治体と連携協定を結び、再エネ電力の受給を拡充する。	評価
	採用・不採用		

71	行政	企業に温室効果ガス削減対策の実施を求め、必要な支援と併せて進める。	評価
	採用・不採用		




【その他】

72	事業者（研究所）		評価
	新たなエネルギー源・技術の研究開発に取り組む。		
採用・不採用	支持平均点：3.68	5点の選択割合：-	

73	事業者（運輸・配送）・行政		評価
	個人タクシー制度を柔軟化し、地域交通の担い手を広げる。		
採用・不採用	支持平均点：3.20	5点の選択割合：-	


74	事業者（教育）・行政		評価
	通学バス等の車両を有効活用し、二次利用を進める。		
採用・不採用	支持平均点：3.60	5点の選択割合：-	

75	行政		評価 
	公共サービスをデジタル化し、業務効率化と市民利便性の向上を図る。		
採用・不採用	支持平均点：4.20	5点の選択割合：★★	
参加者の声： 広報誌がデジタル化になったら、紙の削減になると思います。			

76	行政		評価
	公園の休憩ベンチや遊具を誰もが使いやすいインクルーシブ仕様※で整備する。		
採用・不採用	支持平均点：4.12	5点の選択割合：★	

※インクルーシブ仕様：年齢や障がいの有無に関わらず使いやすい設計。

77	行政		評価
	空き家をコミュニティスペースとして利活用する。		
採用・不採用	支持平均点：3.40	5点の選択割合：-	
参加者の声： コミュニティスペースとして利活用する際に、飲食店、地域の事業拠点など、新しい事業の立ち上げの機会になると良いと思います。			

78	市民・事業者（全）・行政		評価 
	3R（リデュース・リユース・リサイクル）やパッケージ簡素化を通じて循環経済の構築に貢献する。		
採用・不採用	支持平均点：4.40	5点の選択割合：★★	
参加者の声： パッケージが少ない商品を前よりも意識して買うようになりました。			

79	市民・事業者（全）・行政	屋上緑化や高反射塗装などのクールルーフ対策※、熱をため込みにくい道路素材の導入などにより、ヒートアイランド現象の抑制を図る。	評価
	採用・不採用		支持平均点：4.32 5点の選択割合：★★



※クールルーフ対策：屋根の緑化や遮熱素材により日射熱を抑え、室温上昇を防ぐ工夫。

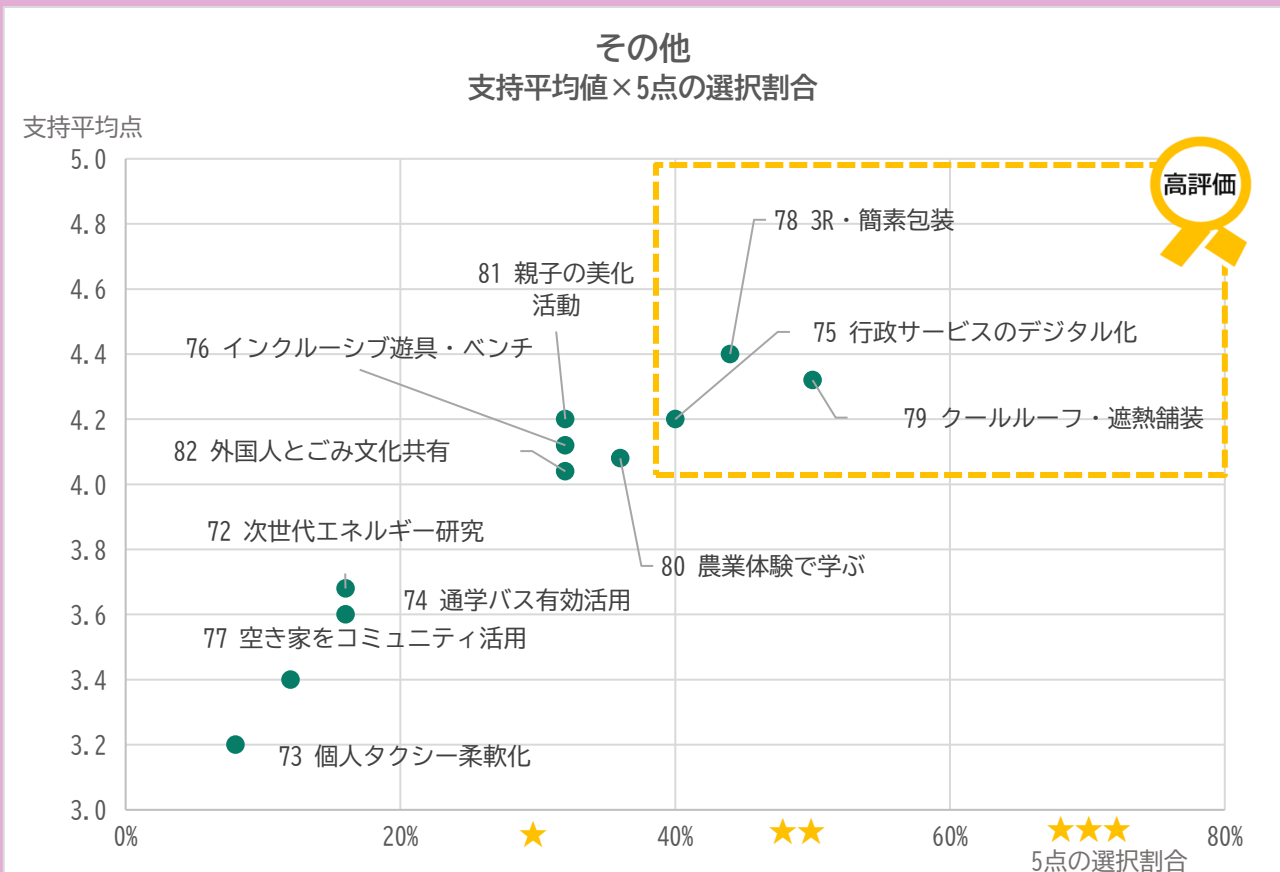
80	市民・事業者（全）・行政	農家や生産地と連携して農業体験を実施し、食と環境への理解を深める。	評価
	採用・不採用		支持平均点：4.08 5点の選択割合：★

81	市民・事業者（全）・行政	親子での清掃活動など、地域の環境美化に取り組む。	評価
	採用・不採用		支持平均点：4.20 5点の選択割合：★

参加者の声：
子供達が通学路でゴミ拾いをしていたので、親も参加できたらと思います。

82	市民・事業者（全）・行政	外国人住民との交流を通じて、ゴミ分別等のルールや文化を共有する。	評価
	採用・不採用		支持平均点：4.04 5点の選択割合：★

参加者の声：
多言語対応で、様々な書面に外国語が必要だと思えます。



第3章 市民を巻き込むエコアクション

1. 市民を巻き込むエコアクション

松戸市が2050年にゼロカーボンシティを実現するためには、多くの市民がゼロカーボンに向けた取組を認識し、共感したうえで実行につなげていくことが不可欠です。

このため、「松戸市環境未来会議2025」では、多くの市民を巻き込み、市民自らが一丸となって行動を起こす契機となる「市民を巻き込むエコアクション」についても議論を深めました。

「市民を巻き込むエコアクション」については、各グループ内で市民発信での実行が考えられるエコアクションを持ち寄り、アイデアを一つに絞り込んだうえで、一つのアイデアを実現可能なレベルまで具体化するため、6W3Hのプロセスを用いて検討を進めました。最終的には、「実現可能性」「市民への波及度」「自身の参加意欲」の3つの観点から投票を実施し、投票数の高いアイデアを1つ選出しました。

今回選ばれたアイデアについては、その実現に向け、「松戸市環境未来会議2025」参加市民、一般社団法人銀座環境会議および松戸市が連携し、具体的な取組の可能性について検討していきます。

「市民を巻き込むエコアクション」の深堀

アイデアの企画内容を深ぼるために、6W3Hの手法を用いました。下図はサンプルです。

市民を巻き込むエコアクションを考えよう	
グループ1	
【エコアクションの名称】	
松戸市に「自然共生サイト」を会議メンバーで作る！	
自然共生サイト：民間企業・NPO・地域団体・自治体などが自ら保全している森・里山・池・湿地・農地などを、国が「自然共生サイト」として認定する制度。	
【6W3H】	
Who (誰が) :	会議メンバー、市民ボランティア、松戸市役所（環境部）、専門家
Whom (誰に向けて) :	松戸市民（特に子育て世代、自然体験に関心のある人）、近隣住民、環境省
What (何をやる) :	自然共生サイトを立ち上げ、整備活動や観察会、ワークショップを開催
Why (なぜやるのか) :	生物多様性の保全、学びの場の提供、市民のエコ意識向上
Where (どこでやるか) :	松戸市内の里山、公園、河川敷など自然資源のある場所
When (いつやるのか) :	年度内に立ち上げ、春～秋に市民参加イベントを実施
How (どうやってやるのか) :	クラウドファンディングで資金調達、市と連携して土地の確保・許認可、銀座環境会議など外部団体に広報を依頼
How much (どのくらいの資金が必要か) :	数百万円（予想、専門家から情報を貰う）
How many (どのくらいの成果を目指す) :	1年で市民賛同者500人年間イベント参加者延べ1,000人
【本エコアクションのアピールポイント】	
・市民の取組が、国に認められる！	
・取組自体が、街の新聞などで取り上げられれば、会議の提言内容もより多くの人に知ってもらえる！	

2. 提案内容

グループ1

提案名称は「子供環境大使（アンバサダー）大集合」。市民会議メンバー等を中心とした企画で、公園などの市内公共空間を活用し、小学生を対象とした体験型イベントを実施する構想である。小学生を主な対象とする理由は、環境意識の醸成には幼少期からの学びが重要であり、その結果として保護者も参加しやすく、家族単位での波及効果が期待できるためである。

実施内容として、子供向けのゲーム大会や街歩き型の企画などを想定しており、会場候補は21世紀の森と広場、運動公園、大学キャンパス等とした。開催時期は天候を踏まえ、ゴールデンウィークを想定している。

周知については、広報紙・学校配布チラシ・SNS告知・プレスリリース

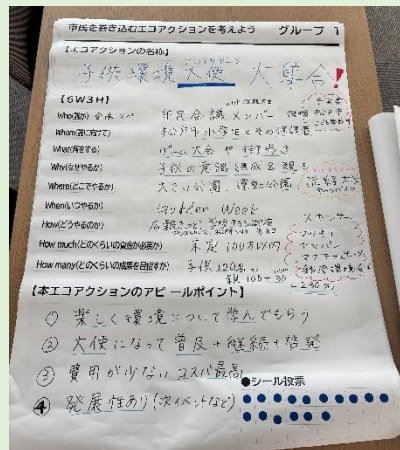
等、多様な媒体を活用していく。費用は100万円以内を想定し、市内企業等の協賛も見込む。参加見込みは子供100名、保護者を含めて200～300名程度を想定している。

本企画の特徴として、楽しみながら環境を学ぶ機会を創出できる点、アンバサダー制度による継続的な普及活動の可能性がある点、協賛を得ることで費用効率が高い点が挙げられる。

子供環境大使（アンバサダー）大集合	
Who（誰が）	市民会議メンバー with 流通大生
Whom（誰に向けて）	松戸市小学生とその保護者
What（何をやる）	ゲーム大会や街歩き
Why（なぜやるのか）	子供の意識醸成&親も
Where（どこで）	大きい公園、運動公園
When（いつやるか）	Golden Week
How（どうやるか）	広報まつど、学校チラシ配布 プレスリリース、松戸市SNS、告知
How much（どのくらいの資金）	未定 100万円以内
How many（成果目標）	子供100名 親100（ママ）+30（パパ）=230名



グループ発表の様子



模造紙の内容

1位
獲得票数
16票

グループ2

提案名称は「ECO モビリティの促進」。徒歩・自転車・電車などの環境負荷の低い移動手段の積極的な活用を促すものである。目的はCO₂削減であり、市内のターミナル駅や乗換駅周辺を中心とした施策展開を想定している。

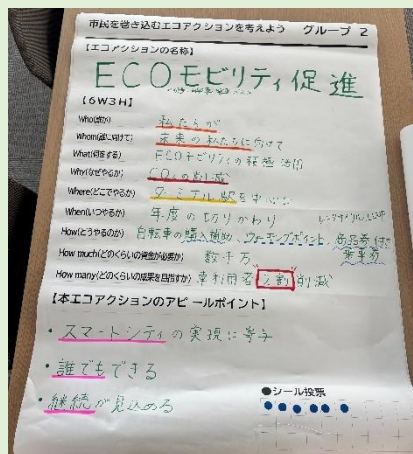
施策例として、自転車購入補助、ウォーキングポイント制度、商品券付き乗車券の販売、商店街等との連携によるクーポン施策を挙げている。年度替わりを契機に、自家用車利用者が公共交通へ移行しやすいと考えている。

必要経費は数千万円規模を想定し、地方創生推進交付金の活用可能性もある。自家用車利用者の2割削減を目標とし、スマートシティ化の推進、多様な市民が参加しやすい点、習慣形成による継続性などが特徴として挙げられる。

ECO モビリティ促進 〈徒歩・自転車・電車・バス〉	
Who (誰が)	私たちが
Whom (誰に向けて)	未来の私たちに向けて
What (何をやる)	ECO モビリティの積極活用
Why (なぜやるのか)	CO ₂ の削減
Where (どこで)	ターミナル駅を中心に
When (いつやるか)	年度の切りかわり
How (どうやるか)	自転車の購入補助、ウォーキングポイント、商品券付き乗車券、レンタルサイクル、Loop
How much (どのくらいの資金)	数千万
How many (成果目標)	車利用者“2割”削減



グループ発表の様子



模造紙の内容

グループ3

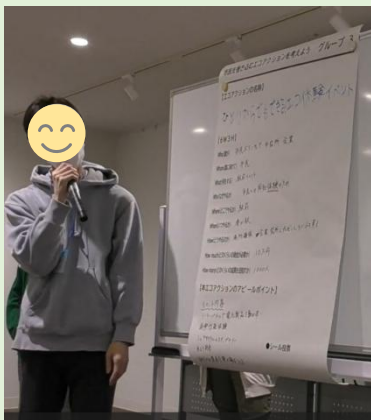
提案名称は「1人からでもできるエコ体験イベント」。市民ボランティア、市役所、企業が連携し、市民を対象に駅前で体験型イベントを実施する構想である。

環境施策について“体験することで理解が深まる”との意見を踏まえ、春・秋を中心に実施する。主な内容として、太陽光パネルの電源体験、断熱の体験展示、シェアサイクルのスタンプラリー、給水スポット体験などを想定。

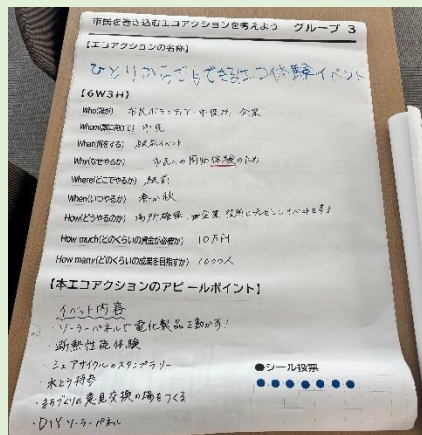
費用は概ね10万円程度、来場者は1,000人規模を目標とする。駅前イベントを通じた街づくりの意見交換の場としての役割も期待される。

ひとりからでもできる!エコ体験イベント

Who (誰が)	市民ボランティア・市役所・企業
Whom (誰に向けて)	市民
What (何を)	駅前イベント
Why (なぜやるのか)	市民への周知体験のため
Where (どこで)	駅前
When (いつやるか)	春か秋
How (どうやるか)	場所確保、企業・市役所にプレゼンする
How much (どのくらいの資金)	10万円
How many (成果目標)	1000人



グループ発表の様子



模造紙の内容

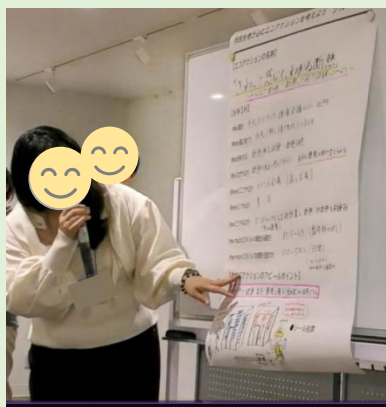
グループ4

提案名称は「さわって感じて、わかる断熱～みんなで断熱！断熱って何？体験してみよう～」。市民ボランティアと市が連携し、主に子育て世代を対象とした断熱の施工・体感イベントを実施するものである。

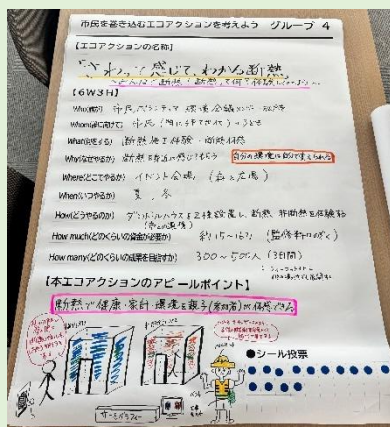
会場は21世紀の森と広場を想定し、夏季・冬季の気温差を活用して断熱効果の比較体験を行う。段ボールハウスを使った施工体験やサーモグラフィによる比較測定、工事現場風の衣装を着用しての体験学習などを実施する。

費用は15～16万円、来場者300～500人程度を見込む。断熱が健康や光熱費に与える効果を学ぶとともに、子どもが“自分の行動で環境を変えられる”という感覚を得られることを特徴とする。

さわって感じて、わかる断熱 ～みんなで断熱！断熱って何？体験してみよう～	
Who（誰が）	市民ボランティア、環境会議メンバー 松戸市
Whom（誰に向けて）	市民（特に子育て世代）+子ども
What（何をやる）	断熱施工体験・断熱体験
Why（なぜやるのか）	断熱を身近に感じてもらう
Where（どこで）	イベント会場（森と広場）
When（いつやる）	夏、冬
How（どうやるか）	ダンボールハウスを2棟設置し、断熱・非断熱を体験する（市との連携）
How much（どのくらいの資金）	約15～16万円（監修料金は除く）
How many（成果目標）	300～500人（3日間）



グループ発表の様子



模造紙の内容

2位
獲得票数
14票

グループ5

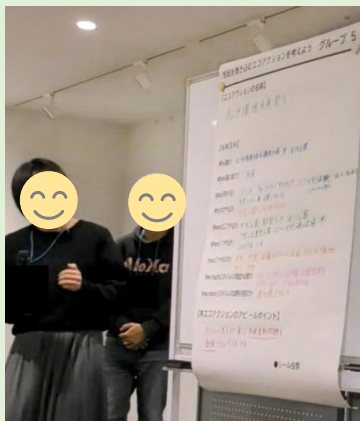
提案名称は「松戸環境未来祭り」。環境未来会議の名称を冠した市民向けの大型イベントを構想している。

内容はイベントラリー、リサイクル体験、ごみ分別、緑化ワークショップなど多様な企画を組み合わせる形式とし、中央公園、駅前、高架下、都市公園、21世紀の森と広場等を候補地とする。

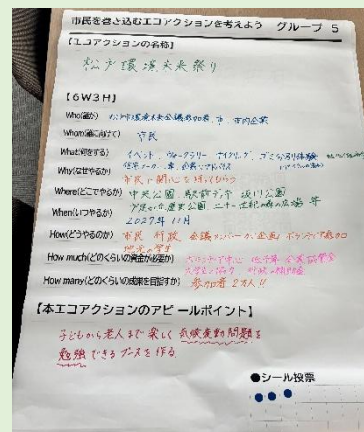
開催時期は2027年11月を想定。市民・行政・会議メンバーに加え、地元学生ボランティアの参加も期待される。企業協賛や行政補助金等で資金を確保し、参加者2万人を目標とする。

ゲーム形式や体験型のブースを通して、子どもから大人まで幅広い層が環境学習に触れられる点を特徴とする。

松戸環境未来祭り	
Who (誰が)	松戸市環境未来会議参加者、市、市内企業
Whom (誰に向けて)	市民
What (何を)	イベント、ウォークラリー、サイクリング、ごみ分別体験(リサイクルの流れ)、緑化(緑の育て方)、住宅メーカー、車、企業にアドバイス
Why (なぜやるのか)	市民に関心を持ってもらう
Where (どこで)	中央公園、駅前デッキ、坂川公園、戸定が丘歴史公園、二十一世紀の森の広場等
When (いつやるか)	2027年11月
How (どうやるか)	市民、行政、会議メンバーが企画 ボランティア参加 地元の学生
How much (どのくらいの資金)	ボランティア中心、低予算、企業協賛金、大学生の協力、行政の補助金
How many (成果目標)	参加者 2万人



グループ発表の様子



模造紙の内容

グループ6

※当日はグループ7

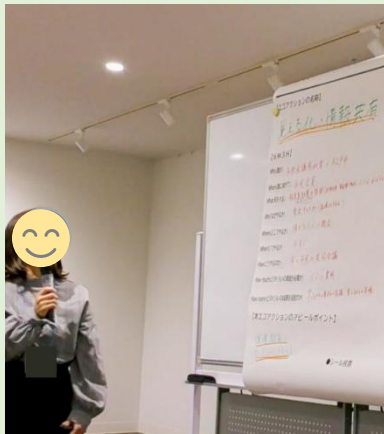
提案名称は「見える化・情報共有」。未来会議と市が連携し、市民全体を対象に、脱炭素効果や断熱性能を分かりやすく可視化する取組である。

断熱効果の見える化、環境家計簿の紹介、駅前緑化やイベント実施、ガイドブックの作成などを組み合わせ、認知向上と普及を促すことが目的。

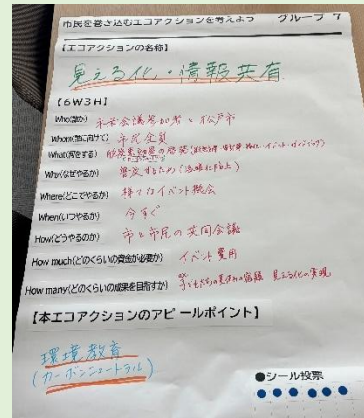
市内のイベント等で継続的に発信し、可能なものは早期に着手する。費用は冊子制作・イベント運営等を見込んだ額とし、効果としては学校での環境家計簿活用や家庭での取組促進が期待される。

特徴として、環境教育を継続的に促す基盤づくりが挙げられた。

見える化・情報共有	
Who (誰が)	未来会議参加者と松戸市
Whom (誰に向けて)	市民全員
What (何をやる)	脱炭素(カーボンニュートラル)の啓発(断熱効果・家計簿・緑化・イベント・ガイドブック)
Why (なぜやるのか)	普及するため(温暖化防止)
Where (どこで)	様々なイベント機会
When (いつやるか)	今すぐ
How (どうやるか)	市と市民の共同会議
How much (どのくらいの資金)	イベント費用
How many (成果目標)	ex:子どもたちの夏休みの宿題 見える化の実現



グループ発表の様子



模造紙の内容



松戸市環境未来会議 2025 からの提案

～ゼロカーボンシティまつどの実現に向けて
(住まい・移動・街づくり編)～

2026年3月発行

発行 松戸市環境未来会議 2025
(会議主催 松戸市 環境政策課 ゼロカーボンシティ推進担当室)
編集 株式会社エックス都市研究所